**別紙　　　　　　　　　大森恵子さんの主なボランティア活動（詳細）**

**1　出前ボランティア体験**

出前は今年度通算1,000回を数えますが、聴覚のみでなく、異なる障がいをお持ちの方とボランティアの方々と小中学校等に出向いています。ろう者も小中学生だけでなく、色々な方々と交流できてたいへん喜んでいます。すごくやりがいのあるボランティアであると思っています。

**2　地域個人登録の会**

平成18年から、ろう者とともに手話サークル間の壁を取り去らなければとの思いから、会を立ち上げて、毎月、会議や勉強会をしています。

**3　「なごみの家　小松川平井」手話ボランティア講師**

地域でのろう者をまじえた集まり「萩の会」は当初は災害時にろう者が困らないように顔見知りになろうと、平成25年に立ち上げました。その後「なごみの家　小松川平井」からの依頼により、高齢者の手話教室がスタートし、手話指導のボランティアを続けています。参加希望者が次第に増えて2部制にしたり、子どもたちのクラスを作り、月２回交流会を続けています。積極的に地域の方々と関わりながらボランティア活動をしています。コロナの影響で人とのコミュニケーションは少なくなり、情報が少ないろう者は見た目ではわからないので、周りの人の関わりが重要で、私の方から積極的に声をかけようと心掛けています。

**4　手話ボランティア養成講座**

毎年ボランティアセンターで開催している「手話ボランティア養成講座」では、ろう者の講師とともに助手として講座全体をコーディネートしています。講座がはじまる前から毎回変わる講師と打ち合わせを行い、講座の内容をどのように進行するか検討をしています。講座が終了後は次回にその内容を引継ぐようにして、受講者が効果的に、かつ楽しく講座の内容を習得できるように工夫しています。昨年度から、単語を数多く覚えるより、ろう者とはこのような人たちだということを理解していただくとともに、ろう者が社会と周りの方々に理解してもらいたいという気持ちを主に受講者にお伝えしています。

**5　ボランティアフェスティバルでの手話通訳**

「ボランティアフェスティバル」では、コロナ禍で中止となる前まで、「地域個人登録の会」のメンバーでイベント、舞台の通訳をやらせていただいていました。今年の3年ぶりのフェスティバルでは式典のあいさつの手話通訳のみでしたので、一人で担当しました。早くコロナの状況が収束して、メンバーとともに参加できるようになってほしいと思っています。

**6　障がい者スポーツ指導員**

平成19年に初級の資格を取得し、平成27年には中級を取得して、東京都及び区内のスポーツイベントに参加しています。以前はさくらホールでろう者の水泳教室、また夢の島で知的障がい者、身体障がい者の水泳指導もやっていました。

平成24年から、3月に開催される「東京マラソン」で4回ボランティアとして受付やゼッケン配付等の役割を担当しましたが、そこで知り合ったボランティアの方々とは、今でも繋がりが続いています。

一昨年の東京オリンピック・パラリンピックでは、無観客で活動は限定されていましたが、city cast(都市型ボランティア)として羽田空港で選手のお見送りもしました。初めての方も含め、色々な方がボランティアを経験したようでしたが、それだけで終わるのではなく、それをきっかけに障がい者と何らかの関わりを持つことを継続してほしいと思っています。